



Vol.35

2010年3月30日

SOYOKAZE そよ風

【目次】

- P 1 ＊トピックス
ワークライフバランス
- P 2 ＊むさしのヒューマン・ネットワークセンターって
何するところ？
- ＊講座報告
- ・別れを選ぶその前に
 - ・女性のための自己表現トレーニング
- P 3 ＊講座報告
- ・邑上市長公開講座
 - ・家庭科教育のいまとこれから
企画：グループ創
- P 4 ＊図書紹介、貸出案内
- ＊総会のお知らせ
 - ＊悩みごと相談



ワーク・ライフ・バランス —仕事と生活の調和—

「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業のもとで日本の高度成長期は支えられてきた、と言っても過言ではありません。しかし、いま時代も移り変わり、ライフスタイルも大きく変化しました。共働き世帯が過半数となるなど、人びとの生き方が多様化してきましたが、働き方や子育て支援などの社会的基盤はこうした変化に対応したものとなっていません。

現実問題として、安定した仕事に就けず経済的に自立することができない、仕事に追われ心身の疲労が健康を害しかねない、子育てや老親の介護に悩む等の諸問題があります。この問題が将来への不安につながり、社会の活力低下や少子化・人口減少を起こしていくと考えられます。

そこで、働き方や生き方に関するこれまでの考え方や制度を見直し、いろいろなライフスタイルをもつ個々人の生き方にあわせて、多様な働き方を選べる社会を目指して「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」（以下、ワーク・ライフ・バランス）が平成19年12月内

閣府によって策定されました。憲章には、目指すべき社会の姿として“国民1人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会”が掲げられ、①就労による経済的自立が可能な社会②健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会③多様な働き方・生き方が選択できる社会を目指して取り組みを行う、とうたわれています。

昨年12月、内閣府が全国の男女2500人を対象にして行った調査では、自らの努力で仕事の効率化が進んだことなどで労働時間が減り、「1年前より生活満足度が上がった」と回答した割合は22.2%となりました。勤め先の都合などで労働時間が減った人のうち「満足度が上がった」人は4.8%に過ぎませんでした。労働時間が減ったことで「家族団らんの時間を増やした」という人は53.3%が満足度が上がったと答えていました。

むかわのコミュニティ・ネットワークセンターへようこそ

わたしも利用しています・・・栗原 毅

JR武蔵境駅北口から徒歩3分、武蔵境市政センターの2階にあるむかわのニューマン・ネットワークセンターは、武蔵野市の男女共同参画推進の拠点施設です。今年で開設十二年目を迎えました。ここでは男女平等社会の実現をめざして、さまざまな活動が取り組まれてい

ます。

私たちの日々の暮らしはすでに男女平等になっていて、不平等は感じなくなっているでしょうか。子育てや家事や介護を担っているのはまだ女性が多く、そのために働きたくても働けなくなるのが困難な状態があります。

また職場では、女性は男性よりも賃金が低かったり、昇進などで差別されたり、セクシャル・ハラスメントを受けたりすることも多くあります。さらに夫や恋人からの暴力(DV)も多発しています。

新聞・雑誌・テレビ等をはじめとするさまざまなメディアからは、女性を性的対象にした情報を送られているという現実もあります。

いっぽう男性のほうも、労働時間は相変わらず長く、育児や介護や地域の活動をしたくてもできないというように、生き方は仕事中心となっています。

「男は仕事・女は家庭」でよいという考えから脱し、女も男も家事・仕事をしていくには、残念ながら解決されなくてはならない課題がまだまだたくさんあります。

センターは、さまざまな課題の解決に向けた学習や各種イベント、そして一人ひとりが力をつけていくための支援をしています。図書や資料等も備え、子育て中の人の学びを保障するために、講座はすべて託児付きとなっています。

また、市民の自主的な学習や活動のために登録団体には会議室を無料で貸し出してもいます。自由に使える交流スペースもありますので、どんな活用していきたいもの



【講座報告】

別れを選ぶその前に 一知っておきたい基礎知識一

女性の中には、夫婦間トラブルやDV問題で悩み、困難から一刻も早く逃れたいために、安易に離婚してしまうケースもあります。しかしそれには、現実をしっかりと見て正しい知識を得ておかないと、その後の生活に支障をきたします。センターでは、離婚を決意する前に最低知っておきたい知識についての学習会を行いました。

参加者は、気持ちの整理や準備したいお金、親権や面接交流、子どもの権利や福祉、扶養料や家裁での手続きなど、具体的なお話を聞き、とても参考になったと述べていました。



東京家族ラボ主宰 池内ひろ美さん

幸せになるためには 生き方は自分が決めましょう



弁護士・杉井静子さん

受講者の感想

具体的な例をあげて説明していただき、我が身を振り返るきっかけになりました。

女性が結婚・離婚を考えることは、男性側の意識改革にもつながると思いました。

面接交流や財産分与、調停の申し立てなどよくわかりました。

女性のための自己表現トレーニング講座

断わりたいのに断れない 気まずさをのりこえたい ケンカはしたくない、でも・・・

言いたいことが言えない、ついイイ人をやってしまう、その場を流してしまっ



トレーナー・坂本照子さん

できることもあり、意外にスッキリします。そんなトレーニングに、定員以上の女性が応募してきました。また「主婦問題は女性問題」「主婦の状況」などについても、その問題性について学ぶことができ、これからの生き方を考える上での力





武蔵野市の男女共同参画施策のこれから

講師：武蔵野市長 邑上守正さん

平成22年1月30日(土)、武蔵野市長、邑上守正さんをお迎えして、市の男女共同参画推進についてお話を伺いました。これは昨年6月に開講した連続17回の「男女共同参画実践講座」の中の、第15回目に公開講座として実施されたものです。初めに市長は経歴や自分史について触れ、これまでに影響を受けた三人の恩師の横顔を紹介されました。



邑上守正武蔵野市長

続いて、男女共同参画推進に向けた国、都の取り組みについて述べ、さらに武蔵野市の取り組みとして、第二次男女共同参画計画の四つの基本目標や、庁内の推進体制など今後の施策の方向や、ワーク・ライフ・バランス実現への意欲などについて述べられました。

お話の後、次から次へ活発な質問が出て、市長は思わず「議会のようだ」とつぶやきながらも、笑顔で丁寧に答えしていました。



参加者の感想は…

参加者は、いつも武蔵野市の男女共同参画について考えている人や、初めてそれについて知ったという人などさまざまでしたが、市長から直接話を聞く機会はあまりないせいか、「伝えたいことがたくさんあったけれど」「もっと具体的なことが聞きたかったのに」と時間切れを残念がる人もいました。

むさしのヒューマン・ネットワークセンターの機能についても、相談事業の展開を今後考えていかなければならないこと、センターの名称がこれでもいいのかも検討課題であること、さらに庁内の職員向けの研修を実施することなどについてもお考えを示してくださいました。

市長の姿勢やリーダーシップ次第で、男女共同参画についての前進が問われる。

市の取り組みについて、市長の決意は分かったが、具体的にどのようにするか、もう少し踏み込んだ話が聞きたかった。

武蔵野市の男女共同参画を前向きに進めていく時期に来ているという、この市長の発言は重要である。

まだ男性中心社会であり、女性差別があるという視点がないと、男女が共同参画していけない。ここが語られていなかったのが残念だった。

市長のお人柄や、個人的な体験は興味深く聞いた。もっと市民の力を集めることができる窓口を設けてほしい。

報告

3月13日(土)
コミュニティ
カフェ

家庭科教育のいまとこれから

～企画・生活クラブグループ創～

こんなに面白い教科はない！のに…



講師：横浜国立大学教育人間科学部教授(家庭科教育学) 堀内かおるさん

家庭科というと、「調理実習」や「裁縫」などを連想するかも知れませんが、それは教科の中の一部です。「男女が共に学ぶ家庭科」となってから、はや20年。堀内さんに持ってきていただいた、実際に使われている小・中・高の教科書を参加者全員で回し読みしてみました。なんと多彩な内容であることか…。家族・環境・健康などについて幅広い分野について取り上げられています。



講師：堀内かおるさん

また数は少ないものの、家庭科の魅力に開眼した男性家庭科教師についてのエピソードも紹介されました。その時代の政治的背景を抜きには考えられない、家庭科教育の歴史や課題もたどりましたが、人が生活していく重みを実感していく大切な教科ではないかとのメッセージに、多くの参加者が「来て良かった」との声を寄せていました。



図書紹介

むさしのヒューマン・ネットワークセンター所蔵図書の蔵書一覧が、ホームページ上でいつでも閲覧できるようになります。お探しの本、以前から読みたかった本・・・見つかるかもしれません。どうぞ、ご期待ください。



新編
『日本のフェミニズム』
～全12巻～

編集：天野正子 他
岩波書店

1994年の旧版（全8巻）の刊行から約15年。好評アンソロジーの各巻が大幅に増補増巻されました。新たに加わった「女性史・ジェンダー史」・「グローバリゼーション」の2巻、そして旧版の「権力と労働」から「ジェンダーと教育」、「表現とメディア」から「フェミニズム文学批評」の2巻が独立し、全12巻で刊行されました。

本シリーズは、日本におけるまたは日本に関わる多様な女性や男性の経験を、自分たちのことばで表現し、語った

メッセージを収録したものです。旧版の刊行から現在に至るまで、フェミニズムにおいては新しい状況や変化が起きています。

そんな状況の中で、世界における日本のフェミニズムもまた独自の展開を遂げてきたことを、このシリーズに触れることで改めて確認できるのではないのでしょうか。そしてテーマ別に編集されたこのシリーズが、この分野への関心を喚起するツールとなることでしょう。ぜひ手に取ってみることをお勧めします。

1巻	リブとフェミニズム
2巻	フェミニズム理論
3巻	性役割
4巻	権力と労働
5巻	母性
6巻	セクシュアリティ
7巻	表現とメディア
8巻	ジェンダーと教育
9巻	グローバリゼーション
10巻	女性史・ジェンダー史
11巻	フェミニズム文学批評
12巻	男性学

運営協議会委員募集のお知らせ

当センターは、武蔵野市の男女共同参画推進の拠点として位置づけられた施設です。管理・運営は、市から委託を受けた運営協議会が担っています。男女共同参画社会の実現を目指して一緒に勉強し、考え、センターの運営に協力して下さる方を募集します。任期は、2010年4月から1年間(継続も可)。毎月1回運営委員会。

お申し込みは4月10日までに当センターへ。

電話 / Fax 0422-37-3410



総会のお知らせ

男女共同参画社会の実現を目指す方々のご参加を歓迎します。奮ってご参加ください。

お申し込みは4月20日まで。

・日時 4月24日(土) 10:30～11:30

・場所 むさしのヒューマン・ネットワークセンター
なお、総会終了後、交流・懇親会を行います。

運営協議会会長 内藤博子

ひとりで悩まずにまずは相談を...

女性の悩みごと相談 (いずれも無料)

■ 女性総合相談

※50分間まで面談・予約

第2木曜 (10:00～、11:00～)

第4火曜 (13:30～、14:30～)

場所・問い合わせ：市民協働推進課

市民相談係 (市役所2階)

☎60-1829

☎60-1921(予約専用)

■ 母子・女性相談

毎週月～金 (9:00～17:00)

(祝日・年末年始を除く)

場所・問い合わせ：子ども家庭課

☎60-1852



図書貸出案内

・図書 3点まで
14日以内

・ビデオ 2点まで
7日以内

・DVD センター内設置のプレイヤーまたは専用PCでのみ再生、視聴できます
※貸し出しはしません



● センター利用案内 ●

開館時間：月・火・木・土曜日 9:30～17:00
水・金曜日 9:30～21:00

会議室利用時間

午前10:00～13:00 午後13:30～16:30

夜間17:00～20:30(水・金のみ)

※予約制(2か月前より可)・使用料無料

● 発行 ●

むさしのヒューマン・ネットワークセンター
武蔵野市境 2-10-27 武蔵境市政センター2階
電話/FAX 0422-37-3410

E-mail : mhnc@tokyo.email.ne.jp

ホームページアドレス <http://www.mhnc.jp/>